

病理部・病理診断科

研修指導者名

谷本 昭英 畑中 一仁 東 美智代 平木 翼

メッセージ

学生時代、病理学という学問は“難しかった”と印象を持っていたり、病理医が日常的に何をしているのかわかりづらかったことはありませんか？ 初期臨床研修を終えて、その印象は変わったでしょうか？病理診断は臨床科での治療方針決定に必須のもので、日々、病理診断を担っているのが病理医であるという事はお分かりだと思います。病理医は全国的に高齢化が進み、数も不足しているため、次の時代を担う若手病理医の育成が私たちの使命と考えています。

“若い病理医が求められています” “次の時代を担う病理医になってみませんか？”

病理診断は病理医、病理技師、臨床医が密に連携して初めて成り立つ医療行為で、科を越えた、横の繋がりを主としたチーム医療です。様々な科の疾患の診断に関わり、担当科の先生方とディスカッションをすることにより、さらに視野の広い医師となることができるでしょう。もちろん、病理専門医を取得した暁には、興味ある分野についてさらに深く探究し、専門性を持った病理診断医となることや研究者になることもできます。

近年、女性医師が増加していますが、病理診断科は、結婚、出産などのイベントにも柔軟に対応できる分野として注目されています。つまり、他の臨床科と異なり、“主治医制度”がなく、休日・夜間に拘束される時間が著しく少ないという点から、仕事に費やす時間や時間帯を自らコントロールすることができます。実際、当院でも、育児をしながら専門医取得を目指している医員の先生が在籍しており、先輩方には市中病院の病理部長として一線で活躍されている先生もいらっしゃいます。女性のみならず、男性の方も、自分のライフワークバランスを考える際に、是非、“病理医”を選択肢に加えてください。既に臨床医として働いていて、病理に興味があり、これから病理医へ轉身しようと思っている方も大歓迎いたします。臨床科での豊富な経験は決して無駄になることはありません。臨床科での経験と知識を武器にして、専門性の高い病理医の道を極めてください。

最後に、収入や将来の就職先などを心配されている先生方もいらっしゃると思います。まずはお気軽にご連絡ください。先生方の疑問、質問には、わかりやすくお答えしたいと思います。

研修目標

外科病理学および病理解剖の基本事項を習得し、病理専門医や細胞診専門医の取得を目指す。

研修可能技能

手術材料の切り出し、病理組織診断、細胞診、病理解剖など

取得できる専門医資格技能

死体解剖資格(3年)、病理専門医(4年～5年)、細胞診専門医(病理専門医取得後)



特 徴

当科では、病理専門医を取得するために必要な病理診断業務および病理解剖について、医歯学総合研究科 病理学教室スタッフと一体となって指導にあたります。

後期臨床研修を希望する者は、病院“医員”籍（有給）で研修することができます。また、医歯学総合研究科の大学院生（博士課程、社会人枠）を兼ねることもできますので、学位取得も可能です。

研修参加条件

前期研修修了者、前期研修修了者・臨床医経験者で病理医を目指す者、病理領域の研究者を目指す者

研修施設

鹿児島大学医学部・歯学部附属病院 病理部・病理診断科

研修期間

4年～5年間で、病理専門医と細胞診専門医の取得を目標とする。

研修プログラム

1. 切り出し技術の習得・・・週1－2回 病理部での切り出しを指導医のもとで行う。
2. 診断・・・①胃腸管生検 ②各科の手術切除標本を中心に、毎日、病理部の標本診断を数例担当し、翌日、診断チェック会で指導医のチェックを受ける。
3. 病理解剖・・・病理解剖を指導医と共に行い、切り出し、診断、CPCでのプレゼンテーション、報告書作成までを担当する。
4. 臨床科とのカンファレンス・・・診断を担当した症例がカンファレンス対象症例となった場合はプレゼンテーションを行う。
5. 学会・研究会・・・学会、研究会での発表を指導医のもとで行う。特に、九州・沖縄スライドカンファレンス（1回/2か月）は可能な限り出席し、年1回の発表を目標とする。

【病理部業務 週間スケジュール】

	月	火	水	木	金
10－12時	診断チェック会				
13－16時	病理部 切り出し				

○診断チェック会・・・前日に渡された診断標本を下見し、報告書を作成した上でチェック会に提出。

指導医のチェックを受ける。診断チェック会には病理医全員が参加する。

○術中迅速診断・・・病理部切り出し当番時に指導医のもと、検体の処理、診断を行う。

○臨床科とのカンファレンス

（週1）・・・皮膚科、呼吸器内科・外科、整形外科

（月1）・・・消化器ESD、肝胆膵、小児腫瘍、頭頸部（耳鼻咽喉科）、乳腺

大学病院Cancer board

CPC（剖検カンファレンス：月2回の場合あり）

研修病院の症例実績

症例数	H. 24年度	H. 23年度	H. 22年度	H. 21年度	H. 20年度
組織診	7019	6941	6629	6277	6435
細胞診	5187	4731	3958	3667	4166
病理解剖	31	35	21	30	26

現在研修中の医師数

	大学内(うち大学院生の数)		大学外
卒後3年目	0	(0)	0
卒後4年目	1	(1)	0
卒後5年目	1	(0)	0

プログラムの募集人員及び選考

【募集人員】 若干名

【選考】 面接

研修と大学院の関係

社会人大学院生であれば、何年目においても大学院入学は可能である。学外での病院での研修も可能

処遇

医員（病院規程による）

研修終了後の進路

大学教員、研究者 あるいは、市中病院や検査センターで病理医として勤務

指導医・専門医

日本病理学会・病理専門医・指導医（4人）

日本臨床細胞学会・細胞診専門医（3人）

プログラムに関する問い合わせ窓口

鹿児島大学病院病理部・病理診断科

〒890-8520 鹿児島市桜ヶ丘8-35-1

TEL : 099-275-5562 FAX : 099-264-6348

mail : east@m2.kufm.kagoshima-u.ac.jp（東 美智代）

